

USA
Summer Competitions 2017

-All Star Dance-

ルールブック



 **unitedspirit**association

A VARSITY BRAND



目 次

P.1～3 競技規定

P.4～12 演技規定

■ Mini/Youth/Mix編成

P.4 Pom Prep部門

P.5 Pom部門

P.6 Hip Hop部門 <Youth編成・Mix編成>

P.7 Jazz部門・Contemporary/Lyrical部門 <Mix編成>

P.8 Spiritleading部門 <Youth編成・Mix編成>

■ Junior/SeniorOpen編成

P.9 Pom Prep部門 <Junior編成のみ>

P.10 Pom部門

P.11 Hip Hop部門

P.12 Jazz部門

P.13 Contemporary/Lyrical部門 <Senior/Open編成>

P.14 Spiritleading部門

P.15 審査対象外部部門ルール <Half-Time USA>

競技規定 -All Star Dance-

赤字: Summer Competition 2016からの変更

1. 出場資格

- ① オールスターのチームであること(クラブチーム及び小学校団体のチーム)
- ② **2017年4月2日**時点の学年(年齢)で構成されたチーム(性別不問)であること
- ③ チームのメンバー構成が該当する編成と部門を選択すること
- ④ 1人が同一編成・同一部門の2チームにエントリーすることはできない(異なる編成であれば、同じ部門にエントリー可能)
 <例> Junior編成 Pom部門 Small と、Junior編成 Pom部門 Medium には、エントリー不可
 Youth編成 Pom部門 Small と、Junior編成 Pom部門 Small にはエントリー可
- ⑤ 3名以上で構成されていること

2. 編成・部門・人数区分

「編成」とは …年齢や学年に応じたチーム構成のこと
 「部門」とは …演技ジャンルのこと (Pom部門、Jazz部門など)
 「人数区分」とは …人数に応じた区分のこと (Small、Largeなど)
 ※人数区分の有無は部門により異なる

<例> Junior編成 Pom部門 Small
 ↳ 編成 ↳ 部門 ↳ 人数区分

◆各大会において編成及び各部門のエントリー数が少ない場合は、それらをまとめて**オープン部門**とする場合がある
 審査は各部門の内容に準じて行い、オープン部門内で順位が決定する

<編 成>

※今年度より一部編成名称を変更致します。名称のみの変更となり、学年区分の変更はございません。
 (旧Tiny編成→Mini編成、旧Elementary編成→Youth編成)

Mini(ミニ)編成	全員が小学4年生以下
Youth(ユース)編成	全員が小学6年生以下
Junior(ジュニア)編成	全員が中学3年生以下
Senior(シニア)編成	全員が高校3年生以下
Open(オープン)編成	全員が中学3年生以上(上限年齢なし)
Mix編成(ミックス)	上記のいずれにも該当しない幅広い年齢

※Mix編成は夏の大会のみ実施

◇ チームメンバーの最高年齢で出場する編成を決定すること

<例> 全員が中学生以下の場合、Senior編成ではなくメンバーの最高年齢に合わせ、Junior編成を選択しなければならない

<部 門>

部 門	特 徴 ※その他詳細は「演技規定」でご確認ください	実施編成・人数区分
Pom Prep部門	Pomを使用した同調性・視覚的効果を含む内容 ※ダンステクニック・スキルの実施制限がある	・Mini/Youth/Mix編成 ・Junior編成
Pom部門	Pomを使用した同調性・視覚的効果を含む内容	・Mini/Youth編成(S/M/L)/Mix編成 ・Junior(S/M/L)/Senior/Open編成
Hip Hop部門	ヒップホップ・ファンク・ロッキングなどのストリートスタイル	・Youth/Mix編成 ・Junior/Senior/Open編成
Jazz部門	一体感のあるシャープでしなやかな動きと、 ダンステクニカルスキルを含む内容	・Mix編成 ・Junior/Senior/Open編成
Contemporary/Lyrical部門	音楽のリリックやリズムの特徴を大切に、 モダンやバレエの表現を用いて構成される内容	・Mix編成 ・Senior/Open編成
Spiritleading部門	ハーフタイムショーのようにショーアップされた スポーツエンターテインメント性のある内容	・Youth/Mix編成 ・Junior/Senior/Open編成

◇ Pom Prep部門は、夏の大会のみの実施となる

◇ Contemporary/Lyrical部門は、今大会より新設された部門です(詳しくはルールブックをご参照ください)

<人数区分>

1) Mini/Youth/Junior編成 Pom部門では、3つの人数区分に分かれる

【Small】3～8名 【Medium】9～14名 【Large】15名以上

2) 一部の人数区分内にエントリーが集中した場合は、公正な審査実施のため、更に細分化した人数区分を適用する
また、人数区分が設定されていない部門についても、エントリーが集中した場合は人数に応じて細分化される

【例:Mini編成 Pom部門 Medium A(9～11名)/Mini編成 Pom部門 Medium B(12～14名)など】

※分割される人数は部門のエントリーチーム数によって変動する

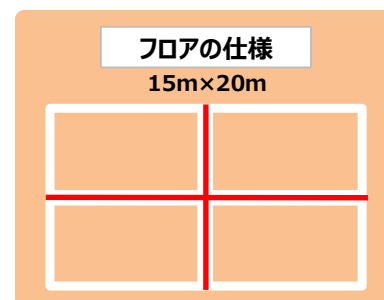
※表彰は分割した区分毎に行う

3. 演技内容

- ◇ 使用楽曲は事前に歌詞内容を確認し、大会参加指針に沿って、適切であるかを見極めること
大会当日に大会運営側から使用楽曲の歌詞内容について確認要請があった場合には、
その場で歌詞内容を確認できる資料(外国語の場合は、訳詞・原文の両方)を提出して頂きます。
尚、訳詞内容のみならず、下品なスラングの入った楽曲の使用は禁止です。
- ◇ 音楽や振り付けは、スポーツシーンに合った内容で行われ、演技はすべての観客のために
適切かつエンターテインメント性に富んでなければならない
下記の内容に該当する場合は、減点チェックシート上の「演技内容」において減点となる場合がある
 1. 振り付けにおいて紛争や抗争をイメージさせる内容
 2. 人を威嚇するジェスチャー
 3. 不快感を与える演出やメイクアップ
- ◇ 以下項目については編成・部門毎に内容が異なるため、必ず『演技規定』に沿って演技構成を行うこと
 - ①人数 ②衣装・コスチューム ③アクセサリ ④手具・小道具 ⑤履物
 - ⑥構成 ⑦特徴 ⑧タンブリング・スタンツ・ダンスリフト ⑨その他※Pom Prep部門は上記に加えて、ダンステクニック・スキルの実施制限が記載

4. 演技フロア

- ◇ 奥行15m×幅20mとし、フロア枠(白枠)、縦横の中央にラインを引く(縦横はその上に赤ライン)
- ◇ 床の素材:各体育館の床に上記ラインをひく
- ◇ 演技に無関係なアイテムの演技フロアへの持ち込みは禁止
(Spiritleading部門のフロア置き道具などは除く)
【例】チームのぬいぐるみ、手具として使用しない小道具など
- ◇ メンバー全員で演技フロアに入場し、演技中の出入りは不可
- ◇ 手具・大道具は全て演技フロア内に設置すること
(使い終わった手具を投げ、演技フロア外に出るのは構わない)
- ◇ 演技者以外のフロアへの立ち入り及び演技者以外が演技に関わる行為は禁止
【例】演技者以外の手具・大道具の設置補助や選手への指示出しなど



5. 演技時間

- ◇ Mini編成 全部門、Youth編成 全部門、Mix/Junior編成 Pom Prep部門は、1分30秒以上 2分00秒以内 とする
その他の編成・部門は、1分45秒以上 2分30秒以内 とする
- ◇ 計測方法は、音楽または動作の開始をもって開始し、音楽・動作の両方の完了をもって終了とする
- ◇ チーム名が読み上げられたら、メンバー全員で速やかにフロアに入場すること
- ◇ フロアへの入場・退場は、合わせて30秒以内に速やかに行うこと

6. 演技のトラブルについて

- ◇ 大会運営側は怪我の発生等、安全性に問題があると判断した場合、または大会運営に支障があると判断した場合、演技を中断する権利を持っている
 - ◆ 怪我が原因で演技を中断した場合、改めて1曲通して再演技できるが、審査は演技中断以降の部分のみが対象となる
 - ◆ 演技前、演技中に運営側の問題(音響機材や施設の不備・故障など)や不測の事態で演技が妨げられた場合、改めて1曲通して再演技できるが、審査は演技中断以降の部分のみが対象となる
 - ◆ 演技前、演技中にチーム側の問題(道具の不備やチームの責任によるトラブル)が発生した場合、チームは演技を続ける必要がある。場合によっては、チームは再演技の申請ができるが、「演技順の変更の申し出」として減点3点が課せられ、1曲通しての審査となる
 - ◆ 大会運営側が、演技・ユニフォーム・衣装等が不適切と判断し、演技を中断した場合、3点の減点となる
不適切な部分の改善が確認できた場合、改めて1曲通して再演技できるが、審査は演技中断以降の部分のみが対象となる
- ◇ 再審査が演技中断以降のみの場合も、演技は予定の内容を1曲通して行うこと(怪我の影響部分は除く)
審査は、ジャッジによって決定された演技中断箇所から再開する
演技中断までに発生した減点はすべて反映される
原則、演技は開始からすべてのスキルを実施しなくてはならないが、すべてのスキルが行えなかった場合、そのチームの得点をどのように扱うかについては、大会運営側の判断によって決定される
- ◇ チーム代表者(音響担当者)は、音響席にある旗を揚げることで自ら演技を中断し棄権できる
(※審査対象外扱い)
- ◇ すべての再演技の判断(実施の有無・タイミングなど)は、大会運営側が行う

7. 審 査

<得点算出方法>

- ◇ 100点満点のスコアシートを使用し、審査員の平均点がチームの得点となる
- ◇ 減点があれば平均点から引いた点数が得点となる

<減 点>

- ◇ 競技規定及び演技規定から外れた項目に対して、1か所につき3点が減点される
- ◇ 上記に加えてPom Prep部門に限り、演技規定のダンステクニック・スキル記載内容から外れた実施に対しては1か所につき1点が減点される
- ◇ 減点項目は、編成・部門によって異なる(減点内容は、ホームページより「減点チェックシート」をご確認ください)
- ◇ 違反の内容によっては、減点ではなく警告または審査の対象外となる場合もある

<順 位>

- ◇ 順位は各大会において、各編成・部門・人数区分毎にチームの得点(減点後)をもって決定する
- ◇ オープン部門については、各編成・オープン部門内で順位が決定する(審査は各部門の内容に準じて行われる)

8. 表 彰

<評 価>

- ◇ 競技部門を対象に、チームの得点に基づき以下の通り評価を行う(3区分)
評価の記したリボンを登録メンバー(選手・補欠)分お渡りする

チームの得点	区分
83.00 ~ 100.00	Superior
68.00 ~ 82.99	Excellent
~ 67.99	Outstanding

- ◇ 審査対象外部門(Half-Time USAのみ)は、公認インストラクターによるコメントシートをお渡りする(得点は出ません)
また、スピリットにあふれるチーム・会場を盛り上げたチームは「グッドスピリットチーム」として表彰する

<入賞・特別賞>

- ◇ 表彰式は各日行うものとする
- ◇ 各編成・部門毎(人数区分のある部門に関しては人数区分毎)に得点の高い順に入賞が決定
※入賞枠はチーム数によって異なります
- ◇ 入賞以外に特別賞(ベストインプレッション賞・チアアップ賞)を設けるものとする
特別賞の数は、大会・各編成・部門のエントリー数によって変動する



演技規定

■ Mini/Youth/Mix編成

- P.4 Pom Prep部門
- P.5 Pom部門
- P.6 Hip Hop部門 <Youth編成・Mix編成>
- P.7 Jazz部門・Contemporary/Lyrical部門 <Mix編成>
- P.8 Spiritleading部門 <Youth編成・Mix編成>

■ Junior/Senior/Open編成

- P.9 Pom Prep部門 <Junior編成のみ>
- P.10 Pom部門
- P.11 Hip Hop部門
- P.12 Jazz部門
- P.13 Contemporary/Lyrical部門 <Senior/Open編成>
- P.14 Spiritleading部門

USA All Star Challenge Competition 2017 USA Challenge Competition 2017 West

<演技規定> Mini編成/Youth編成/Mix編成 Pom Prep部門

この部門は技術の習得段階にあるチームに向けた位置づけとし、ダンステクニック・スキルの実施制限を設けるものとする（夏の大会のみの実施）

今年度より、ラインワーク・キックラインに関する規定はございません

項 目	内 容		
演技時間	1分30秒以上 2分00秒 以内		
衣 装	自由とするが、年齢に相応で全ての観客に対し適切な衣装とメイクを心がけること		
アクセサリ	衣装としてのアクセサリは認める（肌や床を傷つける危険があるものは不可）		
履 物	足裏全部を覆っている物を着用（靴下やタイツのみは禁止・床を傷つける危険があるものは不可）		
手具・大道具	演技時間の80%以上はメンバー全員でPomを使用すること ※【補足】①参照 / Pom以外の小道具・大道具は使用不可		
構 成	同調性と視覚的効果、美しく正確なアームモーション、Pomを使用した技術、ダンスの技術的要素が求められる（視覚的効果とは：立体的変化・グループワーク・フォーメーションチェンジ・異なる色のPomの使用など）		
セーフティ全般	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② Pom・衣装・その他アクセサリ・装飾品は演技中に落下しないように配慮しなければならない ③ 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギブス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること ④ 手に全体重をあげる動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない（例外：前転・後転） ⑤ 立位・逆さの体勢やターンから、膝・腿・座位・うつぶせ・仰向け・スプリットポジションの姿勢になる場合は、少なくとも片手または片足に先に体重が乗るように行うこと ⑥ ジャンプ・空中から演技フロアへ着地する場合は、少なくとも片足に先に体重が乗るように行うこと		
ダンス テクニック ・スキルの 実施制限	項目	ターン	・ステーションナリーターン（※【補足②】）及びピケターンは、 1回転までとし 、脚のポジションはパッセ・クペのみとする （例：ダブルビルエット不可） ・ステーションナリーターン実施の際は、軸足は回転が完成するまで床の上にあること ・フェッテターンの実施は不可 ・シェネターンは4カウントまでを1回とする
		リープ・ジャンプ	リープ・ジャンプは、プレバレーションから実施が終わるまで回転動作が含まれないこと、 また身体のポジション・向き・脚のポジションが変わらないこと（例：スイッチリープ、カリブソなどは不可）
		複合スキル	直立姿勢における1回転までの回転動作は実施可（例：フルターンジャンプ、ソデバスクなど）/回転からのロンドジャンプは不可
		その他	レッグホールド（持つ位置は不問・脚のポジションを変えることはできない 例：フロントからY字などは不可）
	※テクニック・スキルの連続実施は、 同一項目内で2連続まで可 （例：「ジャンプ＋リープ」「ターン＋ターン」など） ※他項目との連続実施は不可 <<連続実施の定義>> 【ジャンプ】着地が次のジャンプの踏み込みにもなる場合 【リープ】1つ目のリープの着地と、2つ目の踏み切り間が2歩以内の場合（着地と踏み切りはいずれもカウントしない） 【ターン】1つ目のターンの後のプリエと、次のターンのプレバレーション（プリエ）が同一の足の場合		
タンブリング	タンブリング（アクロバティック、体操的な技。フロア上から始まりフロア上で終わる個人で行えるもの）は、 実施できるが推奨されない <有効技>に限り実施可（以下①～③を遵守しなければならない） ① 静止・歩行から実施可（走り込み・飛び込み・ホップなど勢いをつけてからは不可） ② タンブリングは単発・コンビネーションともに実施可 ③ タンブリングをしている選手の上や下を、タンブリングしながら通過・越えることは禁止		
	<有効技> 前転、後転、ショルダーロール、側転、チェストロールダウン ※有効技は片手での実施も可 ※Pomを持った手に全体重をあげる動作は、セーフティ違反になるので注意（前転・後転は持ったまま実施可） <禁止技> 上記以外全て ※【補足】③参照		
スタンツ ダンスリフト	① スタンツの実施不可（人に完全に体重を寄せ、両足が床から離れる動作） ② ダンスリフトの実施不可（他者を持ち上げる・下ろす、または他者に持ち上げられる・下ろされる動作） ③ 人に体重を預ける・寄りかかるなどは実施可 人の上を通過する行為（背中を転がる・馬とびなど）は、補助されず自力で行う場合に限り実施可能		

【補足】①Pomの使用時間について…

1名でもPomをおいた場合は、手具を持っていない時間・カウントとして数えられる（但し、片方だけ置き、片方は使用している場合は手具を持っているとみなす）

②ステーションナリーターンとは…

軸足が床の表面に固定されて動かないビルエットターン（シェネ、ピケなどはステーションナリーターンに含まれない）

③タンブリング禁止技について…

有効技以外の全てのアクロバティック・体操的な技
 <例> 倒立、立ちブリッジ、頭支持倒立、前方/後方転回、飛び込み前転、ロンダード、
 前方・後方倒立回転跳び、前方・後方宙返り、側方宙返り、ヘッドスプリングなど

USA All Star Challenge Competition 2017
USA Challenge Competition 2017 West

＜演技規定＞ Mini編成/Youth編成/Mix編成 Pom部門

今年度より、ラインワーク・キックラインに関する規定はございません

項 目	Mini編成/Youth編成	Mix編成
演技時間	1分30秒以上 2分00秒 以内	1分45秒以上 2分30秒 以内
衣 装	自由とするが、年齢に相応で全ての観客に対し適切な衣装とメイクを心がけること	
アクセサリ	衣装としてのアクセサリは認める（肌や床を傷つける危険があるものは不可）	
履 物	足裏全部を覆っている物を着用（靴下やタイツのみは禁止・床を傷つける危険があるものは不可）	
手具・大道具	演技時間の80%以上はメンバー全員でPomを使用すること ※【補足】①参照 / Pom以外の小道具・大道具は使用不可	
構 成	同調性と視覚的効果、美しく正確なアームモーション、Pomを使用した技術、ダンスの技術的要素が求められる（視覚的効果とは：立体的変化・グルーブワーク・フォーメーションチェンジ・異なる色のPomの使用など）	
セーフティ全般	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② Pom・衣装・その他アクセサリ・装飾品は演技中に落下しないように配慮しなければならない ③ 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギプス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること ④ 手に全体重をあずける動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない（例外：前転・後転） ⑤ 立位・逆さの体勢やターンから、膝・腿・座位・うつぶせ・仰向け・スプリットポジションの姿勢になる場合は、少なくとも片手または片足に先に体重が乗るように行うこと ⑥ ジャンプ・空中から演技フロアへ着地する場合は、少なくとも片足に先に体重が乗るように行うこと	
タンブリング	タンブリング（アクロバティック、体操的な技。フロア上から始まりフロア上で終わる個人で行えるもの）は、 実施できるが推奨されない ＜有効技＞に限り実施可（以下①～③を遵守しなければならない） ① 静止・歩行から実施可（走り込み・飛び込み・ホップなど勢いをつけてからは不可） ② タンブリングは単発・コンビネーションともに実施可 ③ タンブリングをしている選手の上や下を、タンブリングしながら通過・越えることは禁止 ＜有効技＞ 前転、後転、ショルダーロール、側転、チェストロールダウン、 倒立、頭支持倒立、立ちブリッジ、前/後方転回 ※有効技は片手での実施も可 ※Pomを持った手に全体重をあずける動作は、セーフティ違反になるので注意（前転・後転は持ったまま実施可） ＜禁止技＞上記以外全て ※【補足】④参照	
スタンツ ダンスリフト	① スタンツの実施不可（人に完全に体重を寄せ、両足が床から離れる動作） ② ダンスリフトの実施不可（他者を持ち上げる・下ろす、または他者に持ち上げられる・下ろされる動作） ③ 人に体重を預ける・寄りかかるなどは実施可 人の上を通過する行為（背中を転がる・馬とびなど）は、補助されず自力で行う場合に限り実施可能	

【補足】①Pomの使用時間について・・・

1名でもPomをおいた場合は、手具を持っていない時間・カウントとして数えられる（但し、片方だけ置き、片方は使用している場合は手具を持っているとみなす）

②タンブリング禁止技について・・・

有効技以外の全てのアクロバティック・体操的な技

＜例＞ 飛び込み前転、ロンダード、前方・後方倒立回転跳び、前方・後方宙返り、側方宙返り、ヘッドスプリングなど

USA All Star Challenge Competition 2017
USA Challenge Competition 2017 West

<演技規定> Youth編成/Mix編成 Hip Hop部門

項 目	Youth編成	Mix編成
演技時間	1分30秒以上 2分00秒 以内	1分45秒以上 2分30秒 以内
衣 装	自由とするが、年齢に相応で全ての観客に対し適切な衣装とメイクを心がけること	
アクセサリ	衣装としてのアクセサリは認める（肌や床を傷つける危険があるものは不可）	
履 物	自由とする（靴下やタイツのみは禁止・床を傷つける危険があるものは不可）	
手具・大道具	装着するもの、手に持つ小道具は使用可（Pom、 大道具 は不可）演技中の着脱も可	
構 成	正確性・スタイル・独創性・ボディバランス・ボディコントロール・リズム・統一感・楽曲の演出を強調したストリートスタイルの動き（ジャンプなどのアスレチックな動作を加えることも可）	
セーフティ全般	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② 手具・衣装・その他アクセサリ・装飾品は演技中に落下しないように配慮しなければならない ③ 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギプス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること ④ 手に全体重をあずける動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない（例外：前転・後転） ⑤ 立位・逆さの体勢やターンから、膝・腿・座位・うつぶせ・仰向け・スプリットポジションの姿勢になる場合は、少なくとも片手または片足に先に体重が乗るように行うこと ⑥ ジャンプ・空中から演技フロアへ着地する場合は、少なくとも片足に先に体重が乗るように行うこと	
タンブリング	タンブリング（アクロバティック、体操的な技。フロア上から始まりフロア上で終わる個人で行えるもの）は、 実施できるが推奨されない <有効技>に限り実施可（以下①～③を遵守しなければならない） ① 静止・歩行から実施可（走り込み・飛び込み・ホップなど勢をつけてからは不可 ※例外：ロンダート） ② タンブリングは単発・コンビネーションともに実施可 ③ タンブリングをしている選手の上や下を、タンブリングしながら通過・越えることは禁止 <有効技> 前転、後転、ショルダーロール、側転、チェストロールダウン、倒立、頭支持倒立、立ちブリッジ、前/後方転回、ロンダート、キップアップ、ストール ※有効技は片手での実施も可 ※手具を持った手に全体重をあずける動作は、セーフティ違反になるので注意（前転・後転は持ったまま実施可） <禁止技> 上記以外全て ※【補足】②参照	
スタンツ ダンスリフト	① スタンツの実施不可（人に完全に体重を寄せ、両足が床から離れる動作） ② ダンスリフトの実施不可（他者を持ち上げる・下ろす、または他者に持ち上げられる・下ろされる動作） ③ 人に体重を預ける・寄りかかるなどは実施可 人の上を通過する行為（背中を転がる・馬とびなど）は、補助されず自力で行う場合に限り実施可能	

【補 足】①有効技についての解説

【キップアップ】 仰向けから膝を曲げ、少し後ろに転んでから脚の反動で立ち上がる技（跳ね起き・ラバーハンドともいう）
 【ストール】 両手・片手で体を支えつつ、動きを停止するヒップホップ技（フリーズ）

②タンブリング禁止技・・・

有効技以外の全てのアクロバティック・体操的な技
 <例> 前方・後方倒立回転跳び、前方・後方宙返り、飛び込み前転、側方宙返り、ウィンドミル、ヘッドスピン、ヘッドスプリングなど

USA All Star Challenge Competition 2017
USA Challenge Competition 2017 West

<演技規定> Mix編成 Jazz部門・Contemporary/Lyrical部門

項 目	内 容
演技時間	1分45秒以上 2分30秒 以内
衣 装	自由とするが、年齢に相応で全ての観客に対し適切な衣装とメイクを心がけること
アクセサリ	衣装としてのアクセサリは認める（肌や床を傷つける危険があるものは不可）
履 物	自由とする（靴下やタイツのみは禁止・床を傷つける危険があるものは不可）
手具・大道具	装着するもの、手に持つ小道具は使用可（Pom、大道具は不可）演技中の着脱も可
構 成	Jazz部門 一体感のあるシャープでしなやかな動きと、ダンステクニカルスキルを含む内容
	Contemporary/Lyrical部門 音楽のリリックやリズムの特徴を大切に、モダンやバレエの表現を用いて構成される内容
セーフティ全般	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② 手具・衣装・その他アクセサリ・装飾品は演技中に落下しないように配慮しなければならない ③ 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギブス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること ④ 手に全体重をあずける動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない（例外：前転・後転） ⑤ 立位・逆さの体勢やターンから、膝・腿・座位・うつぶせ・仰向け・スプリットポジションの姿勢になる場合は、少なくとも片手または片足に先に体重が乗るように行うこと ⑥ ジャンプ・空中から演技フロアへ着地する場合は、少なくとも片足に先に体重が乗るように行うこと
タンブリング	タンブリング（アクロバティック、体操的な技。フロア上から始まりフロア上で終わる個人で行えるもの）は、 実施できるが推奨されない <有効技>に限り実施可（以下①～③を遵守しなければならない） ① 静止・歩行から実施可（走り込み・飛び込み・ホップなど勢いをつけてからは不可） ② タンブリングは単発・コンビネーションともに実施可 ③ タンブリングをしている選手の上や下を、タンブリングしながら通過・越えることは禁止
	<有効技> 前転、後転、ショルダーロール、側転、チェストロールダウン、倒立、頭支持倒立、立ちブリッジ、前/後方転回 ※有効技は片手での実施も可 ※手具を持った手に全体重をあずける動作は、セーフティ違反になるので注意（前転・後転は持ったまま実施可） <禁止技> 上記以外全て ※【補足】②参照
スタンツダンスリフト	① スタンツの実施不可（人に完全に体重を寄せ、両足が床から離れる動作） ② ダンスリフトの実施不可（他者を持ち上げる・下ろす、または他者に持ち上げられる・下ろされる動作） ③ 人に体重を預ける・寄りかかるなどは実施可 人の上を通過する行為（背中を転がる・馬とびなど）は、補助されず自力で行う場合に限り実施可能

【補 足】 ①タンブリング禁止技・・・

有効技以外の全てのアクロバティック・体操的な技
 <例> ロンダート、前方・後方倒立回転跳び、前方・後方宙返り、飛び込み前転、側方宙返り、ヘッドスプリング（手の支えのないもの）など

USA All Star Challenge Competition 2017
USA Challenge Competition 2017 West

＜演技規定＞ Youth編成/Mix編成 Spiritleading部門

項 目	Youth編成	Mix編成
演技時間	1分30秒以上 2分00秒 以内	1分45秒以上 2分30秒 以内
衣 装	自由とするが、年齢に相応で全ての観客に対し適切な衣装とメイクを心がけること	
アクセサリ	衣装としてのアクセサリは認める（肌や床を傷つける危険があるものは不可）	
履 物	自由とする（靴下やタイツのみは禁止・床を傷つける危険があるものは不可）	
手具・大道具	自由とする（大道具の使用も可） ※【補足】①参照	
構 成	ハーフタイムショーのようにショーアップされたスポーツエンターテインメント性のある内容 ※ダンステクニックを必要とする部門ではありません	
セーフティ全般	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② 手具・衣装・その他アクセサリ・装飾品は演技中に落下しないように配慮しなければならない ③ 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギブス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること ④ 手に全体重をあずける動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない（例外：前転・後転） ⑤ 立位・逆さの体勢やターンから、膝・腿・座位・うつぶせ・仰向け・スプリットポジションの姿勢になる場合は、少なくとも片手または片足に先に体重が乗るように行うこと ⑥ ジャンプ・空中から演技フロアへ着地する場合は、少なくとも片足に先に体重が乗るように行うこと	
タンブリング	タンブリング（アクロバティック、体操的な技。フロア上から始まりフロア上で終わる個人で行えるもの）は、 実施できるが推奨されない ＜有効技＞に限り実施可（以下①～③を遵守しなければならない） ① 静止・歩行から実施可（走り込み・飛び込み・ホップなど勢をつけてからは不可） ② タンブリングは単発・コンビネーションともに実施可 ③ タンブリングをしている選手の上や下を、タンブリングしながら通過・越えることは禁止 ＜有効技＞ 前転、後転、ショルダーロール、側転、チェストロールダウン、倒立、頭支持倒立、立ちブリッジ、前/後方転回 ※有効技は片手での実施も可 ※手具を持った手に全体重をあずける動作は、セーフティ違反になるので注意（前転・後転は持ったまま実施可） ＜禁止技＞上記以外全て ※【補足】②参照	
スタンツ ダンスリフト	① スタンツの実施不可（人に完全に体重を寄せ、両足が床から離れる動作） ② ダンスリフトの実施不可（他者を持ち上げる・下ろす、または他者に持ち上げられる・下ろされる動作） ③ 人に体重を預ける・寄りかかるなどは実施可 人の上を通過する行為（背中を転がる・馬とびなど）は、補助されず自力で行う場合に限り実施可能	

【補足】 ①手具・大道具の設置・・・

演技中に使用する全ての手具・大道具は、選手自身でフロア内に運び入れ・設置・撤去できるものでなければならない

②タンブリング禁止技・・・

有効技以外の全てのアクロバティック・体操的な技
 ＜例＞ ロンダート、前方・後方倒立回転跳び、前方・後方宙返り、飛び込み前転、側方宙返り、ヘッドスプリング（手の支えのないもの）など

USA All Star Challenge Competition 2017 USA Challenge Competition 2017 West

＜演技規定＞ Junior編成 Pom Prep部門

この部門は技術の習得段階にあるチームに向けた位置づけとし、ダンステクニック・スキルの実施制限を設けるものとする（夏の大会のみの実施）

項 目	内 容		
演技時間	1分30秒以上 2分00秒 以内		
衣 装	自由とするが、年齢に相応で、全ての観客に対し適切な衣装とメイクを心がけること		
アクセサリ	衣装としてのアクセサリは認める（肌や床を傷つける危険があるものは不可）		
履 物	自由とする（靴下やタイツのみは禁止・床を傷つける危険があるものは不可）		
手具・大道具	演技の80%以上はメンバー全員でPomを使用すること ※【補足】①参照 /Pom以外の小道具・大道具は使用不可		
構 成	同調性と視覚的効果、美しく正確なアームモーション、Pomを使用した技術、ダンスの技術的要素が求められる（視覚的効果とは：立体的変化・グループワーク・フォーメーションチェンジ・異なる色のPomの使用など）		
セーフティ全般	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② Pom・衣装・その他アクセサリ・装飾品は演技中に落下しないように配慮しなければならない ③ 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギプス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること ④ 手に全体重をあずける動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない（例外：前転・後転）		
ダンス テクニック ・スキルの 実施制限	項目	ターン	・ステーションナリーターン（※【補足②】）及びビケターンは1回転までとし、脚のポジションはパッセ・クッペ・セカンド（アラセゴン）のみとする（例：ダブルピルエット禁止） ・ステーションナリーターン実施の際は、軸足は回転が完成するまで床の上にあること ・シェネターンは4カウントまでを1回とする ・フェッテターンは3周まで可（シングルターンで構成されていること） ・フェッテターンは同一項目・他項目ともに連続実施は不可
		リープ・ジャンプ	リープ・ジャンプは、プレパレーションから実施が終わるまで回転動作が含まれないこと、また身体のポジション・向き・脚のポジションが変わらないこと（例：スイッチリープ、カリブソなどは不可）
		複合スキル	直立姿勢における1回転までの回転動作は実施可（例：フルターンジャンプ、ソデバスクなど）/回転からのロンドジャンプは不可
		その他	レッグホールド（持つ位置は不問・脚のポジションを変えることはできない 例：フロントからY字などは不可）
	※テクニック・スキルの連続実施は、同一項目内では3連続まで可（例：「ジャンプ+ジャンプ+リープ」など） ※他項目との組み合わせは2項目・2連続まで可（例：「ターン+ジャンプ」「リープ+複合スキル」など） <<連続実施の定義>> 【ジャンプ】着地が次のジャンプの踏み込みにもなる場合 【リープ】1つ目のリープの着地と、2つ目の踏み切りの間が2歩以内の場合（着地と踏み切りはいずれもカウントしない） 【ターン】1つ目のターンの後のプリエと、次のターンのプレパレーション（プリエ）が同一の足の場合		
タンブリング & エアリアル ストリートスキル 個人で実施するもの	<ダンススキルとしてのタンブリングは実施できるが、必須ではない。実施する場合は、以下①～⑤を遵守すること。> ① 逆さま姿勢になる場合は、少なくとも1つの手のサポートを必要とする／空中に浮く技は実施不可 ② 空中に浮かない技で、腰が頭を超える回転を含むものは2連続まで実施可（空中に浮く技は手の支持の有無に関わらず実施不可） ③ 腰が頭を超える体勢での回転を含むタンブリングをしている同士が、お互いの上・下を、通過・超えることは禁止 ④ 膝、腿、背中、肩、座位、うつぶせ、頭で空中から演技フロアへ着地する場合、衝撃を抑えるため片手または片足に先に体重が乗るようにすること ⑤ 脚が体の前方にあるジャンプの状態から、足を後方に動かして腕立て伏せ姿勢でフロアに着地することは不可		
ダンスリフト パートナーリング グループ/ペアで実施するもの	<ダンスリフト・パートナーリングは実施できるが、必須ではない。実施する場合は、以下①～⑥を遵守すること。> ① 動作を行うダンサーの腰は、頭のレベルの高さを越えてはならない ② 全ての支えるダンサーは、動作を実施している間は常に演技フロアに直接触れている状態を保たなければならない ③ 全ての支えるダンサーは、動作を実施するダンサーと動作が終わるまでお互いが触れている状態を保つこと ④ 動作を行うダンサーは、持ち上げられる技で逆さま姿勢になってはいけない ⑤ 動作を行うダンサーは、演技フロアに接していれば垂直に逆さま姿勢になることが可能 ⑥ 動作を行うダンサーは、リリースされてはならない		

【補足】①Pomの使用時間

1名でもPomをおいた場合は、手具を持っていない時間としてカウントする（但し、片方だけ置き、片方は使用している場合は手具を持っているとみなす）

②ステーションナリーターン

軸足が床の表面に固定されて動かないピルエットターン（シェネ、ビケなどはステーションナリーターンに含まれない）

USA All Star Challenge Competition 2017 USA Challenge Competition 2017 West

＜演技規定＞ Junior編成/Senior編成/Open編成 Pom部門

項 目	内 容
衣 装	自由とするが、年齢に相応で、全ての観客に対し適切な衣装とメイクを心がけること
アクセサリ	衣装としてのアクセサリは認める（肌や床を傷つける危険があるものは不可）
履 物	自由とする（靴下やタイツのみは禁止・床を傷つける危険があるものは不可）
手具・大道具	演技の80%以上はメンバー全員でPomを使用すること ※【補足】①参照/Pom以外の小道具・大道具は使用不可
構 成	同調性と視覚的效果、美しく正確なアームモーション、Pomを使用した技術、ダンスの技術的要素が求められる（視覚的效果とは：立体的変化・グループワーク・フォーメーションチェンジ・異なる色のPomの使用など）
セーフティ 全 般	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② Pom・衣装・その他アクセサリ・装飾品は演技中に落下しないように配慮しなければならない ③ 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギブス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること ④ 手に全体重をあずける動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない（例外：前転・後転）
タンブリング & エアリアル ストリートスキル 個人で 実施するもの	＜ダンススキルとしてのタンブリングは実施できるが、必須ではない。実施する場合は、以下①～④を遵守すること。＞ ① 空中に浮く技で、手の支持がなく、腰が頭を超える回転をするものは実施不可（例外：フロントエアリアル※【補足】②・側方宙返りは実施可） ② 腰が頭を超える体勢での回転を含むタンブリングをしている同士が、お互いの上・下を、通過・超えることは禁止 ③ 膝、腿、背中、肩、座位、うつぶせ、頭で空中から演技フロアへ着地する場合、衝撃を抑えるため片手または片足に先に体重が乗るようにすること ④ 空中から演技フロアに腕立て伏せ姿勢で着地することは不可
ダンスリフト パートナーリング グループ/ペアで 実施するもの	＜ダンスリフト・パートナーリングは実施できるが、必須ではない。実施する場合は、以下①～⑥を遵守すること。＞ ① 肩の高さより下でリフト・パートナーリングを行っている場合は、支えているダンサーは演技フロアに直接触れ続けなくてもよい ② 肩の高さより上でリフト・パートナーリングを行う場合、最低一人は常に動作を行うダンサーとお互いが触れている状態にすること 例外：動作を行うダンサーが一人の支えるダンサーのみに支持されている場合、以下の条件を満たしていれば、いかなる高さから離してもよい a. 離れた後に逆さまになってはいけない b. 離れた後は最低1名以上に支えられて演技フロアへ着地すること c. 離れた後にうつ伏せでキャッチされてはならない d. 支えるダンサーは、動作を行うダンサーが演技フロアへ戻るまでの間、ポンを持つてはならない ③ リフト・パートナーリングでの、腰が頭を超える体勢での回転は、以下の場合に実施可 a. 体重を主に支えるダンサーは、動作を実施するダンサーが演技フロアに戻るまでもしくは頭を上にした垂直姿勢に戻るまでの間、支え続けること ④ リフト・パートナーリングでの、倒立姿勢は、以下の場合に実施可 a. 体重を主に支えるダンサーは、倒立するダンサーが倒立状態を終えて床につくまで、もしくは頭を上にした垂直姿勢に戻るまでの間、支え続けること b. 倒立するダンサーの肩が、直立姿勢での肩の高さを超えるときは、支えるダンサーとは別に、少なくとも1名が追加スポッターとして加わること （解説：支えるダンサーが3名いる場合は追加スポッターは必要ない） 補助のない状態における演技フロアへのディスマウント/着地について ⑤ 支えているダンサーから、ジャンプ/リープ/ステップなどで離れる動作は以下の場合に実施可 a. 離れた後の最高点において、実施するダンサーの腰が、直立姿勢での肩の高さ以下であること b. 離れた後、直立姿勢の腰から肩の高さにある時は、うつ伏せ/逆さま姿勢を通過してはならない ⑥ トスする動作は以下の場合に実施可 a. トスの最高点において、トスされるダンサーの腰が、直立姿勢での肩の高さを超えてはならない b. 仰向け/逆さま姿勢の状態からトスされてはいけない c. トスされた後に、うつ伏せ/逆さま姿勢になってはいけない

【補足】①Pomの使用時間 1名でもPomをおいた場合は、手具を持っていない時間としてカウントする（但し、片方だけ置き、片方は使用している場合は手具を持っているとみなす）

②フロントエアリアル 前方転回(Front Walkover)を手の支持無しで行うものを指す

USA All Star Challenge Competition 2017

USA Challenge Competition 2017 West

<演技規定> Junior編成/Senior編成/Open編成 Hip Hop部門

項 目	内 容
衣 装	自由とするが、年齢に相応で全ての観客に対し適切な衣装とメイクを心がけること
アクセサリ	衣装としてのアクセサリは認める(肌や床を傷つける危険があるものは不可)
履 物	自由とする(靴下やタイツのみは禁止・床を傷つける危険があるものは不可)
手具・大道具	装着するもの、手に持つ小道具は使用可(Pom、 大道具 は不可) 演技中の着脱も可
構 成	正確性・スタイル・独創性・ボディバランス・ボディコントロール・リズム・統一感・楽曲の演出を強調したストリートスタイルの動き(ジャンプなどのアスレチックな動作を加えることも可)
セーフティ全般	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② 手具・衣装・その他アクセサリ・装飾品は演技中に落下しないように配慮しなければならない ③ 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギブス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること ④ 手に全体重をあずける動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない(例外: 前転・後転)
タンブリング & エアリアル ストリートスキル 個人で実施するもの	<ダンススキルとしてのタンブリングは実施できるが、必須ではない。実施する場合は、以下①～⑤を遵守すること。> ① 逆さま状態になる技(腰が頭を超える回転は含まないもの) a. 空中に浮かない技は実施可 b. 手の支持がある空中に浮く技で、垂直逆さま、もしくは肩と背中の上部が演技フロアに触れている状態で着地するものは実施可 ② 腰が頭を超える回転を含む技 a. 空中に浮かない技は実施可 b. 空中に浮く技で手の支持があるもの i. 実施可(例: 後方倒立転回=バック転) ii. 2連続までは実施可(どちらの技も手の支持が必要) c. 空中に浮く技で手の支持が無いものは以下 i・ii の両方を満たす場合は実施可 i. ひねりは最大1回転(360度)まで ii. 空中で腰が頭を超える回転を含む技との連続実施は不可(手の支持の有無にかかわらず不可) ③ 腰が頭を超える体勢での回転を含むタンブリングをしている同士が、お互いの上・下を、通過・超えることは禁止 ④ 腰以下の高さからに限り、肩、背中、座位の姿勢で空中から演技フロアへ直接着地することができる。(膝、腿、うつぶせ、頭からは不可) ⑤ 全てのジャンプから、フロア上に腕立て伏せ姿勢での着地が実施可
ダンスリフト・パートナーリング グループ/ペアで実施するもの	<ダンスリフト・パートナーリングは実施できるが、必須ではない。実施する場合は、以下①～⑥を遵守すること。> ① 肩の高さより下でリフト・パートナーリングを行っている場合は、支えているダンサーは演技フロアに直接触れ続けなくてもよい ② 肩の高さより上でリフト・パートナーリングを行う場合、最低1名は常に動作を行うダンサーとお互いが触れている状態にすること 例外: 動作を行うダンサーが一人の支えるダンサーのみに支持されている場合、以下の条件を満たしていれば、いかなる高さから離してもよい a. 離れた後に逆さまになってはいけない b. 離れた後は最低1名以上に支えられて演技フロアへ着地すること c. 離れた後にうつ伏せでキャッチされてはならない ③ リフト・パートナーリングでの、腰が頭を超える体勢での回転は、以下の場合に実施可 a. 体重を主に支えるダンサーは、動作を実施するダンサーが演技フロアに戻るまで、もしくは頭を上にした垂直姿勢に戻るまでの間、支え続けること ④ リフト・パートナーリングでの、倒立姿勢は、以下の場合に実施可 a. 体重を主に支えるダンサーは、倒立するダンサーが倒立状態を終えて床につくまでもしくは頭を上にした垂直姿勢に戻るまでの間、支え続けること b. 倒立するダンサーの肩が、直立姿勢での肩の高さを超えるときは、支えるダンサーとは別に、少なくとも1名が追加スポッターとして加わること (解説: 支持するダンサーが3名いる場合は追加スポッターは必要ない) 補助のない状態における演技フロアへのディスマウント/着地について ⑤ 支えているダンサーから、ジャンプ/リープ/ステップなどで離れる動作は以下 a./b. 両方を満たす場合に実施可 a. 離れた後の最高点において、実施するダンサーの一部が、直立姿勢での頭の高さ以下であること b. 離れた後、うつ伏せ/逆さま姿勢を通過してはならない。 ⑥ トスする動作は以下の場合に実施可 a. トスの最高点において、トスされるダンサーの一部が、直立姿勢での頭の高さ以下であること b. 仰向け/逆さま姿勢の状態からトスされてもよいが、着地は足からしなければならない c. トスされた後に逆さま姿勢を通過してはならない

USA All Star Challenge Competition 2017 USA Challenge Competition 2017 West

<演技規定> Junior編成/Senior編成/Open編成 Jazz部門

項 目	内 容
衣 装	自由とするが、年齢に相応で全ての観客に対し適切な衣装とメイクを心がけること
アクセサリ	衣装としてのアクセサリは認める(肌や床を傷つける危険があるものは不可)
履 物	自由とする(靴下やタイツのみは禁止・床を傷つける危険があるものは不可)
手具・大道具	装着するもの、手に持つ小道具は使用可(Pom、大道具は不可) 演技中の着脱も可
構 成	一体感のあるシャープでしなやかな動きと、ダンステクニカルスキルを含む内容
セーフティ 全 般	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② 手具・衣装・その他アクセサリ・装飾品は演技中に落下しないように配慮しなければならない ③ 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギブス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること ④ 手に全体重をあずける動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない(例外:前転・後転)
タンブリング & エアリアル ストリートスキル 個人で 実施するもの	<ダンススキルとしてのタンブリングは実施できるが、必須ではない。実施する場合は、以下①～④を遵守すること。> ① 空中に浮く技で、手の支持がなく、腰が頭を超える回転をするものは実施不可 (例外:フロントエアリアル※【補足】①・側方宙返りは実施可) ② 腰が頭を超える体勢での回転を含むタンブリングをしている同士が、お互いの上・下を、通過・超えることは禁止 ③ 膝、腿、背中、肩、座位、うつぶせ、頭で空中から演技フロアへ着地する場合、衝撃を抑えるため 片手または片足に先に体重が乗るようにすること ④ 全てのジャンプから、フロア上に腕立て伏せ姿勢での着地が実施可
ダンスリフト パートナーリング グループ/ペアで 実施するもの	<ダンスリフト・パートナーリングは実施できるが、必須ではない。実施する場合は、以下①～⑥を遵守すること。> ① 肩の高さより下でリフト・パートナーリングを行っている場合は、支えているダンサーは演技フロアに直接触れ続けなくてもよい ② 肩の高さより上でリフト・パートナーリングを行う場合、最低1名は常に動作を行うダンサーとお互いが触れている状態にすること 例外: 動作を行うダンサーが一人の支えるダンサーのみに支持されている場合、以下の条件を満たしていれば、いかなる高さから離してもよい a. 離れた後に逆さまになってはいけない b. 離れた後は最低1名以上に支えられて演技フロアへ着地すること c. 離れた後にうつ伏せでキャッチされてはならない ③ リフト・パートナーリングでの、腰が頭を超える体勢での回転は、以下の場合に実施可 a. 体重を主に支えるダンサーは、動作を実施するダンサーが演技フロアに戻るまでもしくは頭を上にした垂直姿勢に戻るまでの間、支え続けること ④ リフト・パートナーリングでの、倒立姿勢は、以下の場合に実施可 a. 体重を主に支えるダンサーは、倒立するダンサーが倒立状態を終えて床につくまでもしくは頭を上にした垂直姿勢に戻るまでの間、支え続けること b. 倒立するダンサーの肩が、直立姿勢での肩の高さを超えるときは、支えるダンサーとは別に、少なくとも1名が追加スポッターとして加わること (解説: 支持するダンサーが3名いる場合は追加スポッターは必要ない) 補助のない状態における演技フロアへのディスマウント/着地について ⑤ 支えているダンサーから、ジャンプ/リープ/ステップなどで離れる動作は以下a./b.両方を満たす場合に実施可 a. 離れた後の最高点において、実施するダンサーの一部が、直立姿勢での頭の高さ以下であること b. 離れた後、うつ伏せ/逆さま姿勢を通過してはならない。 ⑥ トスする動作は以下の場合に実施可 a. トスの最高点において、トスされるダンサーの一部が、直立姿勢での頭の高さ以下であること b. 仰向け/逆さま姿勢の状態からトスされてもよいが、着地は足からしなければならない c. トスされた後に逆さま姿勢を通過してはならない

【補足】①フロントエアリアル 前方転回(Front Walkover)を手の支持無しで行うものを指す

USA All Star Challenge Competition 2017 USA Challenge Competition 2017 West

<演技規定> Senior編成/Open編成 Contemporary/Lyrical部門

項 目	内 容
衣 装	自由とするが、年齢に相応で全ての観客に対し適切な衣装とメイクを心がけること
アクセサリ	衣装としてのアクセサリは認める(肌や床を傷つける危険があるものは不可)
履 物	自由とする(靴下やタイツのみは禁止・床を傷つける危険があるものは不可)
手具・大道具	装着するもの、手に持つ小道具は使用可(Pom、大道具は不可) 演技中の着脱も可
構 成	音楽のリリックやリズムの特徴を大切に、モダンやバレエの表現を用いて構成される内容
セーフティ 全 般	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② 手具・衣装・その他アクセサリ・装飾品は演技中に落下しないように配慮しなければならない ③ 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギブス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること ④ 手に全体重をあずける動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない(例外:前転・後転)
タンブリング & エアリアル ストリートスキル 個人で 実施するもの	<ダンススキルとしてのタンブリングは実施できるが、必須ではない。実施する場合は、以下①～④を遵守すること。> ① 空中に浮く技で、手の支持がなく、腰が頭を超える回転をするものは実施不可 (例外:フロントエアリアル※【補足】①・側方宙返りは実施可) ② 腰が頭を超える体勢での回転を含むタンブリングをしている同士が、お互いの上・下を、通過・超えることは禁止 ③ 膝、腿、背中、肩、座位、うつぶせ、頭で空中から演技フロアへ着地する場合、衝撃を抑えるため 片手または片足に先に体重が乗るようにすること ④ 全てのジャンプから、フロア上に腕立て伏せ姿勢での着地が実施可
ダンスリフト パートナーリング グループ/ペアで 実施するもの	<ダンスリフト・パートナーリングは実施できるが、必須ではない。実施する場合は、以下①～⑥を遵守すること。> ① 肩の高さより下でリフト・パートナーリングを行っている場合は、支えているダンサーは演技フロアに直接触れ続けなくてもよい ② 肩の高さより上でリフト・パートナーリングを行う場合、最低1名は常に動作を行うダンサーとお互いが触れている状態にすること 例外: 動作を行うダンサーが一人の支えるダンサーのみに支持されている場合、以下の条件を満たしていれば、いかなる高さから離してもよい a. 離れた後に逆さまになってはいけない b. 離れた後は最低1名以上に支えられて演技フロアへ着地すること c. 離れた後にうつ伏せでキャッチされてはならない ③ リフト・パートナーリングでの、腰が頭を超える体勢での回転は、以下の場合に実施可 a. 体重を主に支えるダンサーは、動作を実施するダンサーが演技フロアに戻るまでもしくは頭を上にした垂直姿勢に戻るまでの間、支え続けること ④ リフト・パートナーリングでの、倒立姿勢は、以下の場合に実施可 a. 体重を主に支えるダンサーは、倒立するダンサーが倒立状態を終えて床につくまでもしくは頭を上にした垂直姿勢に戻るまでの間、支え続けること b. 倒立するダンサーの肩が、直立姿勢での肩の高さを超えるときは、支えるダンサーとは別に、少なくとも1名が追加スポッターとして加わること (解説: 支持するダンサーが3名いる場合は追加スポッターは必要ない) 補助のない状態における演技フロアへのディスマウント/着地について ⑤ 支えているダンサーから、ジャンプ/リープ/ステップなどで離れる動作は以下a./b.両方を満たす場合に実施可 a. 離れた後の最高点において、実施するダンサーの一部が、直立姿勢での頭の高さ以下であること b. 離れた後、うつ伏せ/逆さま姿勢を通過してはならない。 ⑥ トスする動作は以下の場合に実施可 a. トスの最高点において、トスされるダンサーの一部が、直立姿勢での頭の高さ以下であること b. 仰向け/逆さま姿勢の状態からトスされてもよいが、着地は足からしなければならない c. トスされた後に逆さま姿勢を通過してはならない

【補足】①フロントエアリアル 前方転回(Front Walkover)を手の支持無しで行うものを指す

USA All Star Challenge Competition 2017 USA Challenge Competition 2017 West

<演技規定> Junior編成/Senior編成/Open編成 Spiritleading部門

項 目	内 容
衣 装	自由とするが、年齢に相応で全ての観客に対し適切な衣装とメイクを心がけること
アクセサリ	衣装としてのアクセサリは認める（肌や床を傷つける危険があるものは不可）
履 物	自由とする（靴下やタイツのみは禁止・床を傷つける危険があるものは不可）
手具・大道具	自由とする ※【補足】①参照
構 成	ハーフタイムショーのようにショーアップされたスポーツエンターテインメント性のある内容 ※ダンステクニックを必要とする部門ではありません
セーフティ全般	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② 手具・衣装・その他アクセサリ・装飾品は演技中に落下しないように配慮しなければならない ③ 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギプス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること ④ 手に全体重をあずける動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない(例外：前転・後転)
タンブリング & エアリアル ストリートスキル 個人で実施するもの	<ダンススキルとしてのタンブリングは実施できるが、必須ではない。実施する場合は、以下①～④を遵守すること。> ① 空中に浮く技で、手の支持がなく、腰が頭を超える回転をするものは実施不可（例外：フロントエアリアル※【補足】②・側方宙返りは実施可） ② 腰が頭を超える体勢での回転を含むタンブリングをしている同士が、お互いの上・下を、通過・超えることは禁止 ③ 膝、腿、背中、肩、座位、うつぶせ、頭で空中から演技フロアへ着地する場合、衝撃を抑えるため 片手または片足に先に体重が乗るようにすること ④ 空中から演技フロアに腕立て伏せ姿勢で着地することは不可
ダンスリフト パートナーリング グループ/ペアで実施するもの	<ダンスリフト・パートナーリングは実施できるが、必須ではない。実施する場合は、以下①～⑥を遵守すること。> ① 肩の高さより下でリフト・パートナーリングを行っている場合は、支えているダンサーは演技フロアに直接触れ続けなくてもよい。 ② 肩の高さより上でリフト・パートナーリングを行う場合、最低一人は常に動作を行うダンサーとお互いが触れている状態にすること 例外：動作を行うダンサーが一人の支えるダンサーのみに支持されている場合、以下の条件を満たしていれば、いかなる高さから離してもよい a. 離れた後に逆さまになってはいけない b. 離れた後は最低1名以上に支えられて演技フロアへ着地すること c. 離れた後にうつ伏せでキャッチされてはならない d. 支えるダンサーは、動作を行うダンサーが演技フロアへ戻るまでの間、手具を持つてはならない ③ リフト・パートナーリングでの、腰が頭を超える体勢での回転は、以下の場合に実施可 a. 体重を主に支えるダンサーは、動作を実施するダンサーが演技フロアに戻るまでもしくは頭を上にした垂直姿勢に戻るまでの間、支え続けること ④ リフト・パートナーリングでの、倒立姿勢は、以下の場合に実施可 a. 体重を主に支えるダンサーは、倒立するダンサーが倒立状態を終えて床につくまで、もしくは頭を上にした垂直姿勢に戻るまでの間、支え続けること b. 倒立するダンサーの肩が、直立姿勢での肩の高さを超えるときは、支えるダンサーとは別に、少なくとも1名が追加スポッターとして加わること （解説：支えるダンサーが3名いる場合は追加スポッターは必要ない） 補助のない状態における演技フロアへのデスマウント/着地について ⑤ 支えているダンサーから、ジャンプ/リープ/ステップなどで離れる動作は以下の場合に実施可 a. 離れた後の最高点において、実施するダンサーの腰が、直立姿勢での肩の高さ以下であること b. 離れた後、直立姿勢の腰から肩の高さにある時は、うつ伏せ/逆さま姿勢を通過してはならない ⑥ トスする動作は以下の場合に実施可 a. トスの最高点において、トスされるダンサーの腰が、直立姿勢での肩の高さを超えてはならない b. 仰向け/逆さま姿勢の状態からトスされてはいけない c. トスされた後に、うつ伏せ/逆さま姿勢になってはいけない

【補足】①手具・大道具の設置 演技中に使用する全ての手具・大道具は、選手自身でフロア内に運び入れ・設置・撤去できるものでなければならない

②フロントエアリアル 前方転回(Front Walkover)を手の支持無しで行うものを指す



審査対象外部部門

■ Half-Time USA

USA All Star Challenge Competition 2017 / USA Challenge Competition 2017 WEST

◆クラブチーム対象◆ 審査対象外部部門(Half-Time USA) ルール

大会参加指針を理解した内容とし、安全面においては競技部門に準ずるものとする

- **出場対象**
 - ・3名以上で構成されているチーム(年齢・性別不問)
 - ・人数の上限はないが演技フロア内で安全に演技が行える範囲内であること
- **演技時間**
 - ・【Half-Time USA】2分00秒以内
 - ・チーム名が読み上げられたら、メンバー全員で速やかにフロアに入場すること
 - ・フロアへの入場・退場は、各30秒以内に速やかに行うこと
- **演技内容**
 - ・使用楽曲は事前に歌詞内容を確認し、大会参加指針に沿って、適切であるかを見極めること
※大会当日に大会運営側から使用楽曲の歌詞内容について確認要請があった場合には、
その場で歌詞内容を確認できる資料(外国語の場合は、訳詞・原文の両方)を提出して頂きます。
尚、訳詞内容のみならず、下品なスラングの入った楽曲の使用は禁止です。
 - ・音楽や振り付けは、全ての観客のために適切かつエンターテインメント性に富んでいなければならない
- **演技フロア**
 - ・奥行15m×幅20mとし、縦横の中央にラインを引く(白枠、縦横はその上に赤ライン)
 - ・演技に無関係なアイテムの演技フロアへの持ち込みは禁止(チームのぬいぐるみ、手具として使用しない小道具など)
 - ・メンバー全員で演技フロアに入場し、演技中の出入りは不可
 - ・全ての手具の設置は演技フロア内で行うこと(但し、使い終わった手具を投げ、演技フロア外に出るのは構わない)
 - ・演技者以外のフロアへの立ち入り及び演技者以外が演技に関わる行為は禁止
(演技者以外の手具・大道具の設置補助や選手への指示出し等)

項 目	内 容
衣 装 アクセサリ	自由とするが、年齢に相応で全ての観客に対し適切な衣装とメイクを心がけること
履 物	自由とする (靴下やタイツのみは禁止・床を傷つける危険があるものは不可)
道 具	自由とするが、演技中に使用する全ての手具・大道具は出場者自身でフロア内に運び入れ・設置・撤去できるものでなければならない
構 成	自由とする (但し、以下タンブリング・スタンツ・ダンスリフトの内容は遵守すること)
セーフティ	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② 手具・衣装・その他アクセサリ・装飾品は演技中に落下しないように配慮しなければならない ③ 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギブス・コルセットをする際は適切な素材でカバーすること ④ 手に体重をあずける動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない(例外:前転・後転) ⑤ 立位、逆さの体勢やターンから、膝・腿・座位・うつぶせ・仰向け・スプリットポジションの姿勢になる場合は、 少なくとも片手または片足に先に体重が乗るように行うこと ⑥ ジャンプ・空中から演技フロアへ着地する場合は、少なくとも片足に先に体重が乗るように行うこと
タンブリング	タンブリング(アクロバティック、体操的な技。フロア上から始まりフロア上で終わる個人で行えるもの)は、 <u>実施できるが推奨されない</u> <有効技>に限り実施可 (以下①～③を遵守しなければならない) ① 静止・歩行から実施可(走り込み・飛び込み・ホップなど勢をつけてからは不可 ※例外:ロンダート) ② タンブリングは単発・コンビネーションともに実施可 ③ タンブリング中の人の上や下を、タンブリングしながら通過するのは禁止 <有効技> 前転、後転、ショルダーロール、側転、チェストロールダウン、倒立、頭支持倒立、立ちブリッジ、 前/後方転回、ロンダート、ストール、キップアップ ※有効技は片手での実施も可 ※手具を持った手に全体重をあずける動作は実施不可(前転・後転は持ったまま実施可) <禁止技> 上記以外全て ※【補足】①参照
スタンツ リフト	① スタンツの実施不可 (人に完全に体重を寄せ、両足が床から離れる動作) ② ダンスリフトの実施不可 (他者を持ち上げる・下ろす、または他者に持ち上げられる・下ろされる動作) ③ 人に体重を預ける・寄りかかるなどは実施可 人の上を通過する行為(背中を転がる・馬とびなど)は、補助されず自力で行う場合に限り実施可能

【補足①】 タンブリング禁止技…………… 有効技以外の全てのアクロバティック・体操的な技

<例> 前方・後方倒立回転跳び、前方・後方宙返り(伸身含)、飛び込み前転、側方宙返り、ヘッドスプリングなど

◆MEMO◆

